

浜松市におけるコンパクトシティについて

現在の浜松市にとって“コンパクトシティ”の考え方は必要か否かと問われれば、必要であると考
えます。

少子超高齢時代、世界的エネルギー需要の増加と価格高騰、環境保全の必要性の高まり、市行財
政改革の推進などを背景に、コンパクトシティは中心市街地の空洞化、郊外のスプロール化、車社会、
効率的な公共投資などに対し効果的であるとされています。浜松市が特に力を注ぐ合併後の土地利用
計画、企業流出など独自の課題に対しても効果的であると考えられます。

ここで重要な点はその考え方であり、市街地を縮小することではありません。将来、人口が横這い
となるのか、100万人を越えるのか、あるいは減少に転じるのか、行政施策や経済状況など様々な要
素により予測は変わってきます。これにフレキシブルに対応し、豊かな生活を送るにはコンパクトシ
ティの考え方を適用することが重要であると考えます。

合併時に掲げられたクラスター型のまちづくりはこの考え方が入っていたのかなと思います。
必要なのはこのブドウ一粒一粒を大きくすることではなく、まず、成熟させることだと思います。

特に旧浜松市、浜北市は非常にスプロール化が進み、今更遅いのではないかと思われませんが、これ
を拡大させないためにも必要であると思われます。

ここにきて、市は企業流出を防ぐため、郊外移転の規制を緩める旨の施策をとろうとしているよう
であるが、コンパクトシティの考え方とは全く違うもので、さらなる土地利用の混乱を招くものであ
ると考えられます。企業が流出した一因はスプロール化により、大企業が求める土地を計画的に創出
できなかったためだと考えられるからです。

中心市街地の活性化、公共交通の整備など中・短期的な課題に加え、長期的な課題と考えられてい
た環境問題やインフラの老朽化などが同時に押し寄せており、コンパクトシティの考え方を施策とし
て具体化し、企業や市民の行動として求めていく必要があると思います。

まちづくり人材育成講座（第6回） 課題

2007.12.15.

『コンパクトシティは浜松にとって必要と思いますか？』

浜松市だけでなく、どこの都市でも必要であると思います。

市街地拡大に伴い、人口密度が低い市街地はたくさんある。これから、都市を維持していくためには多大な行政投資が必要になる。

行政コストの削減、人口減少、高齢化、中心市街地の空洞化と衰退、自動車利用の抑制などコンパクトシティを目指す必要があると思います。

「コンパクトシティ」最も効率を良くする都市の姿

浜松市の場合はどんなイメージになるのか

合併された旧市町それぞれの地域で、コンパクトシティを目指し、相互補完、連携強化するクラスター型都市というイメージ？

それぞれの区役所中心にどのような特徴をもって、都市づくりを行っていくのか、理解してなく申し訳ありません。合併前とどんな違いをもった「まち」になっていくのか、興味がありません。

しかし、コスト削減のメリットがあるのか疑問です。

また、クラスター型ということは、機能分散するわけだから、住民が必要とする機能を旨く分散できるのか、誰もがそれらの機能を利用性よく利用できるようになるのかが今後の課題となるのでしょうか。

これらの連携強化のためにはインフラ整備が重要になるわけで、これは単に道路整備することではなく、誰もが利用できる公共交通機関の整備とあわせて行う必要があると思います。

静岡市は郊外へ移転した公立病院へ、バス路線を乗り継ぎしなければいけません。そのほかにも職業安定所、保健所、警察署、運転免許試験場など車で行かなければ不便。これからは車中心の考え方から脱却し、人中心の都市づくりを行ってほしいものです。

中心市街地の容積率を「ドーン」と上げて、公共公益施設を再整備を行ってほしいものです。

第6回 まちづくり人材育成講座

“コンパクトシティ”の考え方は、現在の浜松市にとって必要だと思いますか？
その理由と、浜松市に当てはめた場合の問題点・課題について述べてください。

都市の拡大の意味が合併のことを云っているのか、分かりませんが大きくなっての弊害が起きているのかも分かりません。コンパクトシティも良い面もあると思います。歩く範囲での生活が出来るのなら交通手段の自家用車の利用回数も減るでしょう、環境にも良いと思います。しかし私達のように、田舎に住んでいると田舎にも色々な機能も必要でしょう。色々な設備が田舎に出来るのは、大変有り難く恩恵をこうむっています。町中心の考えも田舎の事も考慮して考えて頂きたいと感じています。

まちづくり人材育成講座(第6回)課題

“コンパクトシティ”の考え方は、浜松市にとって必要だと思いますか？
その理由と浜松市に当てはめた場合の問題点・課題について述べてください。

平成19年12月4日

浜松市の進める「技術と文化の世界都市・浜松」「環境と共生するクラスター型都市・浜松」の実現に向けての指針のもと、浜松市の都市計画が提示されていることは良いことですが、その内容が一般的には認識・浸透されていないのが実情の様に思われます。

このことは、政令指定都市移行前の各行政区の多岐に渡る施行・各地域の歴史と文化に育まれた多様な生活圏が混在しての併合であり、各区別行政が緒についた所で、その成果・評価等はこれからなされてくると思います。

中でも、変化の途上とは言え「浜松市の顔 薫る文化の中区」と銘打った、旧浜松市街地への現況を見据えた上で高密度なまちづくりへの挺入れが必要だと考えます。

この様なことから、“コンパクトシティ”の考え方は、浜松市にとって必要だと思います。

但し、「徒歩で移動できる範囲を生活圏として捉える都市計画概念」から、この生活圏の範囲とその居住者増を意図的に整理・促進していく必要があると考えます。

そのために、各地区に於いて区画整理事業等が展開され着々と新都市化に向け進められていることは意義深いことと理解しております。

次に 商業の形態変化について述べますと、流通の変革・通販等の拡大・消費者指向の変化・商店主の高齢化等と共に、幹線道路沿で郊外の大規模店展開は、ショッピングモールにお客様を車ごと抱え込み、歓楽施設も併設し目的外購買も誘引させる展開となってきました。

それに比して市中心部では、駐車待ち車両が公道に連なる現象を多々見受けます。又 歩道が整備されてきたが、楽しく歩ける歩道とは言い難い所が散見され、雨天時等は雨具なしでは到底隣のお店・ビル等に行けず難渋するのが現実です。

即ち ウィンドーショッピングの概念と威勢のいい呼び込みの声が無くなった町並みとなり、歩いて楽しい所とはお世辞にも言えないと感じています。

更に言えば、軌道高架下等市街地の1等地にありながら、散歩・通行も疎まれる状況が見られるのは残念です。このまま推移すると、「市の中心部に有りながら触れたくない・近づきたくない場所となる恐れがある。」ので関連法の整備・関連企業のご協力と住民の熱意等で、明るく快適な場所として行く必要があると考えます。

いずれにしても、その地区住民が安心・安全・快適に安住出来、世帯増の諸施策を講ずると共に老後は生まれ育った町中に戻り、町おこしに積極参加の体制・実行及び維持が必要と考えます。

この事が追従者を呼び寄せる力となると信ずる一人です。

まちづくり人材育成講座(第6回) 課題 コンパクトシティについて

私は、コンパクトシティの考え方は現在の浜松市にとって必要だと考えます。中心市街地において徒歩を中心に生活する人の環境を豊かに、かつ満足なものにすべきだからです。

浜松市においては工場(勤務先)が郊外へ広がっているため、その勤務地を中心に衣・食・住環境を整えば良いと考えます。そして各地域の見本となる場所として中心市街地の高密度なまちが存在していることが理想です。これは中心地のみならず、機能が集約されるわけではなく、郊外にも徒歩を中心とした生活圏を作ることを理想に考えています。

浜松市においては中心市街地を徒歩中心のまちにしたいです。しかしそれだけ価値のあるまちとして、住むのには金銭的な負担が大きくなってくのではないかと思います。生活者は、高収入の方、高齢者の方、車を持たない方が適正だと思います。以上ここでは中心街に住み、生活する人について考えて書きました。生活者区域、です。

次は生活者エリア以外の場所として、商業施設、学校、多文化地域など、住む人でなく行きかう人が楽しめる場所についてです。ここでは、学生、外国籍の方、買い物に来た方、それぞれにとって過ごしやすい空間になって欲しいと考えます。学生でしたら価格帯の低いものが多い区域、外国籍の方なら母国の料理が食べられ、同国籍の人の集まる区域、などです。車を持たない人が比較的多いと予想し、考えました。

また、郊外からの車の乗り入れ口として浜松駅への送迎口をはっきりつくっていただきたいことがあります。

問題点としては、働く場所が郊外の方、また北遠地域など中心街ととても離れている方は市が中心街に開発金額をかけられても、自分たちの生活に還元されない、ということが挙げられます。

中心市街地がコミュニケーションを大事にした地域になってほしいです。

私自身、郊外に住んでいますので、市街地へ行くことも少ないです。しかし自分の住む地域が、特に(難しいと考えるコミュニケーションの面で)豊かになって欲しいです。その見本として中心市街地があれば、という願いです。